

日本と海外の水道水記事一覧

日本の水道水と海外の水道水って味が違うの？

日本の水道水と海外の水道水では、味が違うといわれていますが、本当なのでしょう？結論からいうと、日本の水道水と海外の水道水では、味が違うといって良いでしょう。ただ、この問題に関しては、日本国内でも地域によって味が異なるので、それほど驚くことはありません。例えば、日本国内でも田舎の水道水と都会の水道水では全く味が異なりますよね？これは浄水場で使用している塩素の量が関係しており、水の汚染が酷ければ酷いほど塩素をたくさん使用し、逆に水の汚染が少ない場合は、塩素を大量に使う必要がないのです。そして、塩素の量が多ければ多いほど水道水独特のカルキ臭というのが強くなり、そのまま飲むと不味く感じます。だから、水の汚染が酷い都会の水道水は不味く感じ、水が綺麗な田舎の水道水はおいしく感じるのです。

これと同じように塩素をたくさん使用している国は、カルキ臭が強いので、不味く感じますし、少ないところはおいしく感じます。

しかし、海外の場合は、このカルキ臭だけが味の違いの原因ではありません。

日本の水道水と海外の水道水では、硬度が異なります。

硬度とは水に含まれているミネラル分の量のことで、硬度が高いということは、ミネラル分がたくさん含まれていると思ってください。

硬度が高い水は、クセが強く飲みにくく、硬度が低いとまろやかで飲みやすいです。

基本的に日本は、水道水の硬度が低い国なので、海外の水道水を飲むと違和感を感じやすいと思われます。

日本の水道水と海外の水道水の処理の仕方は同じ？

日本の水道水と海外の水道水の処理の仕方は同じなのか気になりますよね？特にこれから海外に行かれる方であれば、なおさら気になると思います。では、日本と海外の水道水の処理方法に違いはあるのでしょうか？日本で採用している水道水の処理方法は、急速ろ過という処理方法が一般的だといわれています。ただ、緩速ろ過や高度浄水処理を採用している浄水場もあるので、高度浄水処理と急速ろ過と緩速ろ過が日本の水道水の主な処理方法だと思って良いでしょう。そして、海外の水道水の処理方法は、一概にどれを採用しているとはいえません。急速ろ過を採用しているところもあれば、緩速ろ過を採用しているところもあります。また、高度浄水処理を用いている浄水場もあるので、高度浄水処理と急速ろ過と緩速ろ過が日本の水道水の主な処理方法だと思って良いでしょう。

そして、海外の水道水の処理方法は、一概にどれを採用しているとはいえません。

急速ろ過を採用しているところもあれば、緩速ろ過を採用しているところもあります。

また、高度浄水処理を採用しているところもあり、その国や地域によって異なると思って

ください。

ただ、一ついえるのは、世界の中でも日本の水道水は非常に安全な部類に入ることです。

日本の水道水は厳しい水質基準を設けており、私たちの体に影響を与えない、安全な水を提供しています。

世界の中でも水道水をそのまま使用できる国は珍しく、世界中探してもそうはありません。ほとんどの国は水道水を飲み水として使用していないのが現状なので、日本の水道水がどれだけ安全なのか分かります。

また、その国によって、水道水の味も変わり、おいしいところもあれば、不味く感じることもあります。

海外で水道水を使用する際は、その水が本当に使用できるのかをきちんと確認するようにしてください。

日本の水道水の普及率って？

日本の水道水の普及率は、一体どのくらいなのでしょう？そもそも、日本で水道水が使用されていない地域はあるのでしょうか？日本の水道水の普及率は、97パーセントを超えており、ほとんどの地域で水道水が使用されています。水道水が普及していない地域の中にはありますが、そういったところは恐らく井戸水などを使用されているのでしょう。水が綺麗な地域であれば、水道水が無くても問題無く生活できますし、塩素などが含まれていない分、おいしく飲むことができます。水は私たちの生活に非常に大切な存在ですが、水が原因で様々な問題も起こります。代表的なのは、水俣病やイタイイタイ病といった公害問題です。水俣病やイタイイタイ病は、工場で使用された水が原因で引き起こされた公害病です。

このように水が汚染されてしまうと、私たちの体に悪影響を及ぼしてしまうのです。

仮に浄水場で安全な水になったとしても、汚染された水の中で生息している魚などを食べてしまうと公害病になってしまう可能性があります。

本当においしい水が飲みたい、安全な水が飲みたいと思われるのであれば、まずは自分たちにできることをする必要があります。

山や川にゴミを捨てない、洗剤の量を減らすというのは、今からでできることなので、意識して生活してみてもいいでしょうか？

そして、水が綺麗になれば、浄水場で使用する塩素の量も減らすことができるので、今よりもおいしく安全な水を飲むことができるようになります。

世界の水道水事情

日本の水道水の普及率は、97パーセントといわれており、未だに全ての家庭で水道水が使用されている訳ではありません。使用されていない地域というのは、主に離島で、そういったところには水道水が普及されていません。また、地域によっては、水道水ではなく、

井戸水を使用しているところもあります。年々、普及率は上がってきていますが、普及率 100 パーセントになるには、しばらく時間がかかるかもしれません。では、世界の水道水事情は、どのようになっているのでしょうか？世界で水道水の普及率が 100 パーセントに達しているのは、スイス、デンマーク、ブルガリア、イギリス、スウェーデン、フィンランド、オーストリア、ベラルーシなどのヨーロッパの国々です。

また、アメリカやカナダ、オーストラリアも水道水の普及率が 100 パーセントに達しています。

水道水の普及率が 100 パーセントに達しているところは、このようにそれほど多くありません。

そして、水道水が普及しているからといって、その水がおいしくて安全だとは限りません。欧米諸国は、水道水を飲み水と使用することはほとんどなく、飲み水としてミネラルウォーターを購入しています。

中には日本のように水道水をそのまま飲める国もありますが、それはごく僅かだと思って良いでしょう。

水道水は普及しているが、飲み水として使用できないという国がたくさんあるので、日本人はかなり恵まれていると思って良いでしょう。

アメリカの水道水は？

アメリカは以前まで、水道水をそのまま飲むということはしていませんでした。そのため、みなさんミネラルウォーターを購入していたのですが、それが徐々に変わってきています。一昔前であれば、アメリカの水道水は非常に危険だといわれていましたが、現在は全く問題ありません。あまりイメージが無いかもしれませんが、アメリカの水質基準は、世界でも特に厳しく、安全性を重視しています。日本も水質に厳しく安全性が高いといわれていますが、アメリカの方がより一層安全性が高いと思ってください。しかし、アメリカという国はとても大きな国なので、州によっては、多少水質が落ちているところもあります。ただ、平均的に厳しい水質基準を設けているところが多いので、どの地域の水道水も安全に使用することが可能だといえます。

そして、水道水の水質が改善されたという理由の他に、環境問題を考えた上で、ミネラルウォーターよりも水道水を飲む方が増えています。

これは、日本では未だにそういった考えを持つ人は少ないですが、アメリカではペットボトルが環境に悪いという考えを持っている人もいるためです。

ただし、アメリカの水道水は水質基準が高く、安全性が高いですが、おいしいかどうかは別の話です。

日本の水質基準は 50 項目ほどですが、アメリカの水質基準は 300 項目以上あり、何度も言いますが非常に水質にこだわっています。

しかし、だからといって、おいしい訳では無く、あくまでも安全性が高いだけです。

水道水がおいしいかどうかは、塩素の量やミネラル分の量で変わってきます。

中国の水道水

私たちに日本人からすると水道水の水を飲み水として使用するの当たり前ですが、世界規模で考えるとこれは非常に珍しいことです。世界で水道水を飲み水として利用できる国はそれほどなく、日本は特殊な国だと思った方が良いでしょう。日本の水質基準は非常に厳しく、安全性が高いため、問題無く使用することができますが、海外に行くと絶対に安全だとはいえなくなります。特に中国の水道水をそのまま飲むのは非常に危険だということを覚えておきましょう。まず、中国の水道水は、日本では感じることはない泥やサビの臭いがするので、初めて中国で水道水を使用された方は驚くはずですが、水道水を桶などに貯めると分かりますが、茶色や黄色の色をしていて、使用するのが怖くなると思います。

なぜ、そういった臭いや色をしているのかというと、下水処理施設や浄水場の設備レベルが低いからです。

そのため、未だに水質汚染された水がそのまま各家庭に使用されているというのが現状です。

また、水質基準が他の先進国よりも低いというのも水質が悪い原因ともいえます。

そして、中国の水道水はカルシウムやマグネシウムといったミネラル分が多い硬水なので、仮に安全な水だとしても、日本人が飲むとお腹を壊してしまいます。

なぜなら、私たちが普段日本で飲んでいる水道水は、ミネラル分がそれほど多くない軟水だからです。

慣れない水を飲んでしまうと下痢をしてしまうので、中国に行った際には気をつけてください。

台湾の水道水

日本の水道水は安全性が高く、飲み水として使用できますが、世界の国々の中には使用できないところもあります。では、台湾の水道水は、そのまま飲み水として使用できるのでしょうか？台湾の水道水は基本的に飲み水として使用することができず、現地の人でもそのまま飲もうとする人はいません。一度沸騰させてから使用しているか、またはミネラルウォーターを購入している人がほとんどです。台湾の水道水の質は、非常に悪いため、仮に台湾に行った場合はミネラルウォーターを購入してください。なぜ、ここまで水道水の質が低いのかというと、浄水場の設備技術に問題があるからです。台湾は急激に経済が発展し、傍から見ればとても華やかな国に見えますが、その裏には水道水問題が深刻化しています。

産業が発展するという事は、それだけ汚染物質が増えるということですが、その対策が取られていないのが現状です。

そのため、健康被害を与える有害物質が川などに含まれている可能性が非常に高いです。本来であれば、それを浄水場で綺麗で安全な水に変えないといけないのですが、浄水技術

に問題があるため、有害物質を十分に取り除くことができないまま水道水として使用されています。

日本やアメリカのように水に気を遣っている国もあれば、台湾のように未だに設備が不十分なところもあるため、海外に行かれる時には水道水の使用に注意してください。

こうしてみると日本の水道水がどれだけ安全なのか分かります。

フランスの水道水事情

世界でも水道水を飲み水として使用できる国は非常に少ないのが現状です。そのため、海外旅行に行かれた際は、その国の水道水が本当に使用できるのかどうか事前に確認しておいた方が良いでしょう。そして、世界でもおいしくて安全だといわれているのが、フランスです。フランスは、みなさんもお存知だと思いますが、ボルヴィックやエビアンといった大変人気があるミネラルウォーターを生産している国です。フランスの水質は大変良く、日本よりも安全性が高く、安心して水道水を飲める国だと思ってください。なぜ、ここまで水質が良いのかというと、水質基準が非常に厳しいということと、国民の水に対する意識が高いからです。フランスの水質基準は、日本とは比較できないほど厳しいといわれており、これは水道水だけではなく、ミネラルウォーターに関しても同じです。

ミネラルウォーターの水質基準も厳しいため、フランスであればどこに行っても安全な水を飲めるといって良いでしょう。

また、他の国々よりも、国民の水に対する意識が高く、個人レベルで水を汚さないように気をつけています。

この意識の高さが、世界最高の水道水を作り上げている一番の要因だといえます。

ただ、安全性は高いですが、フランスの水道水を飲んで、日本人がおいしく感じるかは別話です。

なぜなら、フランスの水道水は日本とは違い、石灰質を含む硬水だからです。

日本の水道水はなめらかな軟水ですが、フランスの水道水はクセがある硬水なので、日本人が飲んだ場合、違和感を感じるかもしれません。

シンガポールの水道水

シンガポールは、アジアの中でも人気の観光地ですが、水事情はどのようになっているのでしょうか？シンガポールの水道水は、日本と同じレベルなので、安心して使用することができます。また、そのまま飲んだり、料理に使用することもあるので、他の国とは違い警戒する必要はありません。そのため、日本人がシンガポールに行っても、そのまま水道水を飲んで特に問題は無いと言って良いでしょう。そして、嬉しいことにシンガポールの水道水は、日本と同じように軟水だといわれています。日本よりは多少、硬度が高いですが、アメリカやフランスなどの水道水に比べると硬度が低く、飲みやすいはずですが、ただし、いくら軟水といっても、日本より硬度が高いので、下痢を起こす可能性もあります。

ちなみに軟水というのは、ミネラル分が少ない水のことで、お風呂で使用した場合、石鹸の泡立ちが良く、肌もツルツルになるという特徴を持っています。

一方、硬水というのは、ミネラル分が多い水のことで、お風呂で使用した場合、石鹸の泡立ちが悪く、髪を洗うとキシキシするという特徴を持っています。

これが、軟水と硬水の大きな違いなので、他の国で水を使用した際に何か違和感を感じた場合は、使い慣れている軟水ではなく、硬水の可能性が高いです。

シンガポールはアジアの中でも水の安全性が高い国ですが、日本人には多少硬度が高いため、できる限り飲み水としては使用せず、市販のミネラルウォーターを購入された方が良いでしょう。

中東諸国の水道水

中東と聞くと砂漠のイメージが強いため、水道水の普及が不十分だと思われる方もいるかもしれませんが、そういったことはありません。サウジアラビアやアラブ首長国連邦といった中東諸国の水道水の普及率は 90 パーセント前後で、この普及率は、世界でも高い方だと思って良いでしょう。ただし、水道水が普及しているからといって、水が安全という訳ではありません。中東諸国の水道水は、飲み水としては不向きで、そのまま使用している人はいないと言って良いでしょう。現地の人たちは、水道水を使用せず、みなさんミネラルウォーターを飲み水や料理に使用しています。中東諸国の人たちにとって、水道水はあくまでもトイレや洗濯に使用するもので、口に入れるものではないと考えています。

では、どうして中東諸国の水道水をそのまま飲むことができないのでしょうか？

それは、いくら浄水場で安全な水に変えても、水道管の中で色々な菌が繁殖してしまうからです。

中東諸国は、他の国々よりも圧倒的に気温が高いため、菌が繁殖しやすい環境なのです。

そのため、水道管を通過前は綺麗な水でも、通過後は危険な水に変わってしまいます。

これが、水道水の水をそのまま使用することができない最も大きな原因です。

中東諸国に旅行に行かれる方や仕事で行かれる方は、お腹を壊す恐れがあるので、水道水の水を使用せずに、ミネラルウォーターを使用するようにしましょう。

また、水道水をそのまま飲むことができない国は中東諸国だけではなく、たくさんあるのを理解しておいた方が良いでしょう。

香港の水道水

香港といえば世界でも有数の観光スポットですが、水事情はどうなのでしょう？香港の水道水の普及率は高いですが、硬度が非常に高い硬水なので飲み水の使用には不向きです。現地の人でも飲み水として使用していないので、日本人が飲んでしまうとお腹を壊す可能性が高いです。しかも、日本の場合であれば、いくら水道水の不味い地域でも、沸騰させれば普通に飲むことができますが、香港の場合は違います。沸騰させても、水の味は変わら

ず、不味いままだといわれています。そのため、香港で水を飲む場合は、ミネラルウォーターを購入された方が良いでしょう。香港の浄水施設のレベルは世界から見るとそれほど高くはありません。水道水が普及している口に入れるものではないと考えています。

では、どうして中東諸国の水道水をそのまま飲むことができないのでしょうか？

それは、いくら浄水場で安全な水に変えても、水道管の中で色々な菌が繁殖してしまうからです。

中東諸国は、他の国々よりも圧倒的に気温が高いため、菌が繁殖しやすい環境なのです。

そのため、水道管を通過前は綺麗な水でも、通過後は危険な水に変わってしまいます。

これが、水道水の水をそのまま使用することができない最も大きな原因です。

中東諸国に旅行に行かれる方や仕事で行かれる方は、お腹を壊す恐れがあるので、水道水の水を使用せずに、ミネラルウォーターを使用するようにしましょう。

また、水道水をそのまま飲むことができない国は中東諸国だけではなく、たくさんあるのを理解しておいた方が良いでしょう。